第四章

ジャワイスラムの古典における南海の女王

第一節　　ジャワ文学における南海の女王〈118〉

ジャワ文芸において、人間と関係する南海の女王に対する信仰の登場は八世紀以降に見られることは確かである。歴史家たちや研究機関や知識人たちの大部分が南海の女王の神話はジョグジャカルタのイスラム・マタラムの時代に登場したと述べている。一部の研究機関によると南海の女王は口伝の物語であり子供のおとぎ話に過ぎないと理解されている。他の一部は、大衆を組み入れる方法の支配政策の重要事項であるがゆえにマタラム王国の政治的に重要だと関連付けている。

最古の歴史的記録の中に Sanjaya 王の下で西暦 732 年に古マタラム王国の建国に南海の女王がすでに関係したということがみられる。Sanna という名の最古の王が亡くなった後の繁栄期に Mataram 王国は Sriwijaya 軍の攻撃を受けて壊滅した。「Parahiangan 物語」に見られるような脱出行で、Senna は Merapi 山に避難し、その後 Rahyangta Kidul[1]に保護を求めた。〈119〉Na sang Sena diintarkeun kegunung merapi … ….Anggeuh sakamantrian lung aka rahyangta kedul. (Sena 様は Merapi 山にお隠れになり ……その高官たちは Rahyangta Kidul に行ったという意図がある) (Poerbatjaraka 1975: 36)

Senna が Merapi 山に逃げ込んだのは Soekmono も書いているように、その理由は Siekmono によると Sriwijaya の侵攻ではなく Purbasari によると Galuh[2]からのものである。資料 Carita Parahyangan も Soekmono に Pasundan の歴史資料として証明されている。(Soekmono, 1981:40) Mataram 王国の都は、Canggal 村の Gunung Wukir のリンガと Sanjaya によって建設されたことがある寺院の遺跡によって証明される Magelang の南西に位置する Canggal 村に確実に位置していたので、Merapi 山に逃げ込んだことは腑に落ちるのである。これ以外に、Merapi 山は霊界の王国の都として信じられていたこともある。

上記の文章で意味する Rahyangta Kidul とは南海の女王自身に他ならない。Poerbatjaraka によると、Rahyangta とは遠い昔に亡くなった人に対する古い呼称であるがゆえに、この呼び名はこの亡くなった人の霊を意味している。

---

[1] 南海の女王(Mitologi Raru idul by Sudriman による)
[2] ジャワ島チタルム河の西岸以西の地域を支配したスンダ人の王国

(Poerbatjaraka, 1975: 36-37) 上記の南海の女王と Senna 王との関係は、その場所も Kali Opak 河口からそれほど遠すぎることはない、Syekh Bela-Belu と Gagang Akingの話と関係を有すると思われるのてある。この聖人と古 Mataramの背後関係に関連して、西暦 732 年から 1000 年頃まで存在した古 Mataram 時代から上記の河口に近い聖所になっていたという推測が出てくる。(De Graff & Pigeaud, 1985: 280-281)

Serat Centini は、Kahyangan Delepih に聖所があることで、南海の女王の出自は Wonogiri であるという情報を与えている。[3] <120>

長いこと南海の女王の神話が出てこなかったが、「ジャワ年代記」で南海の女王と Panembahan Senopati との恋物語が語られた後、南海の女王は Panembahan Senopatiの王妃であるという伝説が生まれ、南海の女王の呼び名は新Mataram時代に再発見された。(Meinsma, 1974: 10,21,79-82,90-91; Wiryapanitra, 1945: 63; Santosa, t.t.:256-257, Olthof, 2007:93-98) Carita Parahyangan[4]とジャワ年代記の間で人物が異なっているだけである。Carita Parahyangan がその中で最初に述べて目的としているのは南海の女王であるならば、一方の南海の女王について述べているジャワ年代記では、この人は本当は南海の女王の第一の部下の一人の女王に過ぎない。

Serat Centini において南海の女王は、Kahyangan Dalepih[5]で修業を行っていた女行者に関する Sukuh 寺院(1457 年頃に建設された)の Majapahit 碑文とつりあいが取れた Kahyangan Dalepih (Wonogiri)の伝統に結び付けられている。すなわち、Jatha 洞窟(Dalpih)の Wodanongga は南海の女王の娘であり、後日王位に就く Tanjungbang の Angin-angin 候の妻である。この二人の王妃はともにこのように

[3] 原書の註。
[4] パラヒヤガン物語 16 世紀に編纂された古代スンダに関する物語。
[5] 中部ジャワ州 Wonogiri, Tirtomoyo, Dlepih 村。正式村名は Dlepih であり、観光地になっている。

Panembahan Senopati の随行者となった。*Ratu Dalepih Ratu Kidul, kagarwa nJeng Senapati, dadya bu maru lan putra, rumeksa wahyaning aji*「南海の女王の Dalepih 妃は Senapati の妻ではあったがこの愛妾であり子供であり王を守護した」[6](Serat Tjentini, 1989:8/18-19)

南海の女王の臨席は Opak 川(Prambanan)[7]の戦いの勝利に関係づけられる。より多勢の敵をやっつけるため、Senapati と Juru Mertani は南海の女王と Merapi 山の支配者の協力を求めた。Merapi 山の噴火と土石流を伴い霊界の軍隊が大変にぎやかに到着した。Hadiwijaya[8]の幕営が壊されたあと、Hadiwijaya は Gilingan まで退却し Tembayat[9]を目指し、最後には象から落ちてしまった。(Meinsma, 1874:90-91; Santosa, t.t.:264-267) <121>

Babad Tanah Jawi。この中に南海の女王と Panembahan Senopati が出会った物語が記載されている。

一方、Imogiri に諸王の墓廟群を建設した時、Sultan Agung は Alas Ketanga 出身の Resi Nayadi Dayaningrat の忠告で南海の女王の支援を求めた。多数の作業員たちが死ぬ大量で頻繁に襲ってくる毒蛇の攻撃を退けるためであった。最終的に Kyai Penghulu と Temenggung Wiraguna は森を切り開いて上記の墓廟群を建設することに成功したのであった。(Babad Sultan Agung, 1980: 56-62, 250-259)

Mataram が分裂して Kasusunan Surakarta と Kasultanan Yogyakarta になった後、南海の女王をめとる権利はどちらにあるのか、諸王は迷った[10]。南海の女王を二

6 南海の女王の Dalepih 妃は上記の二人の女王は Panembahan Senopati の愛妾であったとともに、実際にはこの二人こそが全てのマタラム王の子孫の保護者になったとはいえ、すべてのマタラム王の愛妾でもあった。(Sudarto Hs 氏訳)
7 Prambanan 寺院群の南側を北東から南西にかけて流れる川で、寺院の対岸には Ratu Boko と呼ばれる山上の遺跡がある。この遺跡は戦略的に良い位置にあり、砦などがあったはずである。
8 Pajang 国の太守。
9 Opak 川の東方約 12km の現在の Klaten に位置する。
10 Kurang cair

つには分けられなかったのは当然であるが、合意に基づいて宮廷の遺産は二つに分割された。で、偏向したいろいろな話が後日出てくるのである。ジャワの諸王の霊界の妃にはもうならなくなったと伏せられた情報があるのは確かだが、おばあさんという呼び名で「長老」の位置に置かれたとはいえ、その一角には南海の女王と諸王との結婚話が確かにある。故 Sri Sultan Hamengku Buwono IX 世は、彼が数日間の断食のようないろいろな儀式を行った後、南海の女王を見たと説明した。月が上る時にはその人は美しい若い女性で、その反対に月が没する時にはさらに年を取ったおばあさんとして見えた。(Tahta Untuk Rakyat, 1982:247)。<122>この告白は南海の女王の長老としての地位を少し正当化するものである。

興味を引く事実とは、たぶん Hamengku Buwono II 世の時代に書かれたと思われる Serat Sekondhar の中で南海の女王がオランダ植民地政府の Pajajaran 地域の支配とも関係していて、植民地の総督に「eyang =長老」という名を与えたりしたことである。この文芸作品は、Pajajaran 王(南海の女王の甥)の子孫のうちの一人の結婚を通じて、南海の女王と Baron Sekendher との血縁関係に関連したものである。この結婚はバタビアの総督たちを生み出した Jangkung (J.P. Coen のあだ名)を生み出した。(Ricklefs, 1974:373-379)

参考資料

Serat Sekondhar の中にこう述べられている。

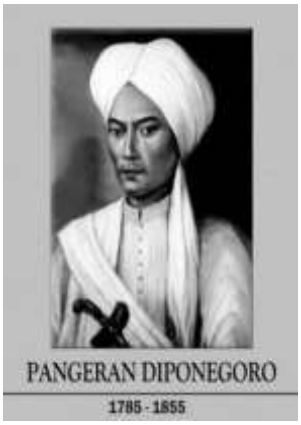
Dewi Mundingsari は光輝く膣を持っている魔術的な意味での「熱い」Pajajaran の王女であり、彼女と結婚できるのは異常な霊力を持つ男だけであったため、この女性と結婚できるジャワの王は存在しなかった。最後にはこの不幸な王女は男性のリンガに似た山門の大砲を結納金としてオランダに売られてしまった。Jan Pieterszoon Coen の父である神秘的な Barong Sukmul、ジャワでのオランダ人の先祖、は最終的に DewiMungdingsari と結婚し、Diponegoro 往時のように 19 世紀に見られるジャワ人によって Pajajaran 王国の相続人として理解されている新しい王国を Sunda Kelapa[11]港に建国した。

出典: https://www.instagram.com/p/BFEsQ1nRVPM/

[11] 現在のジャカルタ市北岸にある古い港湾。

この話の内容は、Mataram 国内のオランダ植民地政府の存在に対する宮廷内の意見が実際に存在したということを指し示している。まずは、G.W. Baron von Imhoff と J.A. Baron van Hohendorf (Surakarta 市の Kartasura の司令官であり Semarang の総督でもあった)が既に存在したことがあげられる。オランダ植民地政府と諸王との争いでは、彼らは南海の女王に対する問題を上げるのが常であった。Diponogoro 王子の敗北(1930 年)後、Langse 洞窟で南海の女王に参詣するとともにアドバイスを仰ぐために Pakubuwono VI 世は六人の部下たちと宮廷を去ったが、Mancingan でジョグジャカルタの知事である J.F.E. van Nes と B. Sollewijn 中佐に捕縛された。(Houben, 2002: 60-65) 植民地政府の記録に述べられたこのような行為は Pakubuwono IV(1789 年)と Diponegoro 王子 (1805)に対しても行われたのだった。

G.W. Baron von Imhoff



後日ジョクジャカルタ側の勝利とはなったが、宮廷の伝統の中で、南海の女王の姿かたちもスラカルタとジョグジャカルタ側との政争に関係した。この件は、悪霊に誘惑された王子が注意を払わず道を誤り、南海の女王が怒って Surakarta の王を「継子」と思ったので南海の女王は Kasunanan Surakarta に対しては単に「継母」であるという、ジョグジャカルタの市民に知れ渡っている物語に見られる。この話は第二次大戦後に Surakarta の王家が衰退したとして解釈されている。このように、王国はジョグジャカルタにあってスラカルタではないとジョクジャカルタの市民たちの概念を構築し、さらには Mataram 王国の発祥の地がスラカルタではなくジョグジャカルタであるという歴史にささえられているのである。〈123〉

南海の女王の地位の不明確さに関して新聞紙上で論戦が行われてはいるが、同女王はいまだ確実に宮廷のいろいろな儀式の中心になっている。南海の女王はいまだに定期的に臨席すると信じられている。Surakarta の王の即位記念日(jumenengan)には毎回、南海の女王と Panembahan Senopati の結婚を物語る聖なる宮廷舞踊と宮廷音楽の 9 人の踊り子の中に登場する結婚衣装をつけて同女王

は儀典室に常に出現すると信じられている。この舞踊は今に至るまで Surakarta で演じられており、ジョグジャカルタでは 1930 年代以降は演じられていない。ジョグジャカルタではこの聖なる舞踊を再興しようとしているが、踊り子の一人が病気になったり、上演前にほかの悪い兆候が現れたりするなどの障害に直面している。それ故、南海の女王はジョグジャカルタ王国でのこの舞踊の公演を許可しないという話が信じられるようになった。(Woodward, 1999:248) この舞踊の話からでも Surakarta 宮廷の人達は、南海の女王の恩恵を確実に有していると感じるため気持ちに余裕を持っているのである。

Surakarta の宮廷は 1985 年まで、南海の女王を宮廷のあがめるもの(pepundhen)として位置付けてきた。1985 年に焼損した宮殿を修復しようとしたとき Masjid Pujasana での起工式で RT. Pujadipura は KRMH の命令を受けた。祈りをささげるために Riyo Yosodipuro がいた。この祈りの中で、Nabi Adam と Siti Hawa[12] に対してムハンマドとその一族郎党、Nabi Khidir, Nabi Ilyas, Sunan Bonang, Sunan Kalijaga, サルタン Hanyakrakusumo の関係を提示した。諸王の子孫達とともに、新宮殿の建材として Donoloyo の森の木材に恩恵をたまわるように、祖先とともに、四方の方角の守護神 Sunan Lawu, Ratu Kencanasari, Ratu Kedhaton, Ratu Kalayuwati を祀った。(setiadi, dkk., 2001: 137-138) <124>

Masjid Pendhem。Tamansari の地下室で、霊界で大災害が起きた時に南海の女王が避難すると信じられている場所である。また Mataram 王との出会いの場にもなっている。

やがて、南海の女王と surakarta の王の邂逅は、Pakubuwono III 世の時代の西暦 1781 年に建てられた宮廷の前庭の北側にある Sanggabuwana 舞台で行われていると信じられている。この四階建ての建物には王のみしか入れず強いパワースポットとなっている。

一方、ジョグジャカルタでは、1867 年の地震で倒壊してしまったが同じような塔

[12] アダムとイブ

が存在した。(Lombard, 1996:118) サルタンと南海の女王との邂逅は、masjid Pendhem (地下のモスク)群がその中にある Sumur Gumuling の Tamansari で行われている。Tamansari は南海の女王とジョグジャカルタの王のための特別な施設である。それどころか、Serat Surya Raja に見られるように、霊界に疫病や災害が生じた時には南海の女王がこの Masjid Rendhem に避難すると信じられている。(Ricklefs, 1974:85)

Hamenku Buwono IX 世以来「老女」となってしまった南海の女王の地位はどうなっているのだろうか。ジョクジャカルタの人達にとって、Panembahan Senopati の遺産のようにサルタンと南海の女王との関係に変化はないのである。サルタンと南海の女王との結婚は、日本を降伏させたインドネシアを支援することで 1945 年の暴力革命時代における Hamengku Buwono IX 世に対して支援を与えたのであった。この話が Hamengku Buwono IX 世からの強調でないところが残念である。〈125〉

今に至るまで、特に Surakarta のみならずジョグジャカルタの人達も宮廷と感情的なつながりをもっているジャワの社会の一部の人達は宮廷と関わり合いのある人たちだけではなくジャワの人達の各個人の信念として南海の女王の存在に関して確信を持っている。

Purwokerto の Banyumas 県の会議場で開催された 2008 年 10 月 21 日から 24 日にかけて行われた国際ジャワ文化フォーラムでのプレゼンテーションでのプレセンター、Surakarta 宮廷の高位の人である KPH. Dopokusumo は王子は南海の女王をどう見ているかという質問に対して、同氏は二つのことを回答した。一つ目は、南海の女王と王との関係は海と陸の両方の地域に関係している。王は陸を支配し南海の女王は海を支配している。それ故、この二人の「結婚」とは海陸を一つにして宮廷が支配するものである、と。二つ目は、大衆の宮廷に対する見解の基になっているいろいろな本や年代記に記されているような確信を宮廷の支持者は有している、と。

上記の観点の源になっているものは次に述べる、Babad Nitik から引用したもののようであるのだろうか。

“Gung pra peri perayangan ejim sumiwi Sang Sinom

Prabu Rara yekti gedhe dhewe”

全ての霊的存在は比類なく偉大な女王に祈りをささげる。

南海の女王に関する多数の観点があるが、その観点の源になっているのは南海の女王がマタラム王国の建国と Panembahan Senopati あるいは Danang Sutawijaya と関連性があるということである。

すでに述べた各種の物語以外に、宮廷の本にはやや異なる観点をもつ物語、詩人 Yosodipuro の物語をもとにしたものがみられる。<126>Kediri[13]では、Jenggala 王の王子で Raden Panji Sekar Taji という名の、新領地を探すために故郷を離れたという話がみられる。新領地の探索時、白いガジュマルという名の白い葉を持ち長い気根を垂らした榕樹がある Sigaluh の森に着いた。実はこの木は lelembut(霊的存在)がその王 Sang Prabu Banjaran Seta とともにいる王国の都であった。

この土地の将来を信じて、Raden Panji Sekar はこの森の木の伐採を行い、上記の白いガジュマルの木も伐採された。この木の伐採で lelembut の王 Sang Prabu Banjaran Seta は喜び、直接現実の世界に消滅することでその人生を完成したのだった。この消滅は、あとで Raden Panji Sekar Taji の体内に入ることになる光の形をとったため、Raden Panji Sakar Taji の超能力を高めることとなった。

昔々、後日王に即位することになる Radedn Sekar Taji と結婚した Prabu Banjaran Seta の姉妹である Retnaning Dyah Angin-angin という人がいた。この結婚から、Kliwon[14]の火曜日に Ratu Hayu という名のお姫様が誕生した。この姫が生まれた時、天女とすべての霊的存在が臨席したといわれている。この女性は祖母の Eyang Sindhula によって、世界中で最も美しい女性になってほしいと Ratu Pegedong と名付けられた。彼女は成人してあばたもなく、ビンロウの実を二つに割ったような母親似で本当な美しい女性になった。とある日、Ratu Hayu あるいは Ratu Pegedong が泣きながら祖母に美貌が永遠に続くことを願った。尋常でない超能力をもつ霊界となるように性質を変えるという条件で、Sindhula の超能力で、美女の Ratu Pagedongan の永遠の若さと肌で終末の日までの命を得ることができ

[13] 東部ジャワ西部にある古い都
[14] ジャワの暦の日の名前 Pasaran のひとつ。Pasaran には pain-pon- wage-kliwon-legi がある

たのだった。

霊体にその形を変えた後、Pagedongan 姫は南海全域を統治しジャワ全土の妖怪たちを支配する権利と義務を父親から与えられた。Pagedongan 姫は一生涯伴侶を得ることなく、占いによると、将来ジャワを統治する大王と会うことになるとのことであった。〈127〉このこと以来、彼女は霊界の女王として君臨し南海全域の支配権を持つようになった。

南海の女王と Panembahan Senopati の出来事に対する宮廷の見方は、南海の女王の支配に対してこのような Wedhatama 物語に記されている。

Wikan wengkoning samodra.

Kederan wes den ideri,

Kinemat kamot hing driya,

Rinegan segegem dadi,

Dumadya angratoni

Nenggih Kanjeng Ratu Kidul,

Ndedel nggayuh nggegana,

Umara marak maripih,

Sor prabawa lan wong agung Ngeksiganda

大洋の果てを知り、全てを探検した

魔力は心に入り込み、一つになって掌握した

それ故彼女は王になった

さて南海の女王は、天高く舞い上がり

祈りのために戻ってくる

マタラム王国に対する影響を打ち負かすために

確かにインドネシアの社会の一部の人は南海の女王に対する信仰を単なる神話としてしか理解しない人がいる。しかし、本当は、原則的に神話というものはジャワ人の一生と行動を認識するための原理として使われていることを思い出すべきである。南海の女王の神話はジャワ人の人生にたいへん大きな影響を与えているのである。Choy が「インドネシア、特にジャワでは、南海の女王の名前を知らない人は例外的である」といっているように、ジャワ人ほぼ全員が南海の女王がジャワ島の南に広がる海を支配する霊的存在であることを知っている。この存在は、南海の女王がすでに認識された文化遺産になってしまっており、世代間で受け継がれているということが証拠である。

神話というのは口伝で代々伝わってきたものから出来上がった話であるから、多数の削除や追加を伴ってその話の展開はいろいろなバージョンができるのである。このようであっても、上記の神話の意図と目的は同じである。南海の女王の神話として知られているものの源への見方は少なくとも二つある。最初のものは、Penembahan Senopati が南海の女王と関係を持ってからのものである。二つ目は、上記に記したようにマジャパヒト時代に書かれた Kediri 王国以降の物語が南海の支配者の存在について暗示しているものである。

ジャワの社会では、影絵芝居(wayang)に関する神話やジャワの日付に関する神話、南海の女王の神話などのように彼らの人生の参考の枠組みとして、いろいろな神話が利用されている。神話は象徴や概念を通じて聖なるものの存在を明らかにするということを意図している。(Dister, 1988:33)神の存在は遠すぎるので、宗教的訓練や神話という形を使って彼らの人生にそれを存在せしめるのである。聖なるものの存在は世界の安定を維持するためと種々の障害や人間の生命に影響を与える自然災害が起きないようにするという意図が込められている。前イスラム時代のみならずイスラム化した現代の人にとってもこの世界に対するジャワ社会の見方は彼らの人生にとって実に肝要なものである。南海の女王に関する話は、ジャワ人が興味を深く抱く幽体の存在に関連しており、この南海の女王の存在がまさにジャワ独自のものであるから、最終的にみられる神話は南海の女王に関するものであることは確かである。

第二節　　南海の女王と Panembahan Senopati

これに続いて著者は、Babad Tanah Jawi Galuh Mataram (Santoso 著)、BabadTanah Jawi Mulai dari Nabi Adam Sampai Tahun 1647(Olthof 著 2008 年)、Islam Jawa の Woodward の要約 (1999)、"Ing Guwa Langse=天幕の洞窟にて" (Wisnu Sri Widodo 著 2008 年)の三点の資料から抜粋して南海の女王と Panembahan Senopati との邂逅について語っている。本当は Panembahan Senopati が出会って妻としたのは実は南海の女王ではなく、南海の王宮の高官になった Ratu Andarawati で、南海の王宮の女王 DewiAngin-angin の第三子でもあり南海冥府の女王とも呼ばれている人であった。

Panembahan Senopati (Raden Bagus Danang Sutawijaya)は Ki Pamanahan の長男であった。系図をたどってみると、Prabu Brawijaya は Dewi Wandan (肌の色が黒い女性)との結婚で、Ki Gede Tarub の娘をめとった Ki Bondan Kejawuen が生まれ、Ki Ageng Getas Pendowo 別名 Syekh Ngabdullah と Ki Ageng Ngerang と結婚した一人の娘が生まれた。KI Ageng Getas Pendowo には、Ki Ageng Selo, Nyai Ageng Pakis, Nyai Ageng Purno, Nyai Ageng Wanglu, Nyai Ageng Bokong, Nyai Ageng Adibaya の六人の子供がいた。Ki Ageng Selo の子供は七人いて、後日 Sutawijaya の父親となった Ki Ageng Pemanahan の父親である Ki Ageng Ngenis 以外は娘だった。

Ki Ageng Pemanahan 自身には七人の子供がいて、Raden Ngabehi Loring Pasar,

Raden Ambu, Raden Santri, Raden Tompe, Raden Kedawung、Pajang の Mayang 県の領主と結婚した娘、もう一人は Pajang の Arya Dadap Tulis の妻となった。〈130〉Mataram に移住したのはこの四人の息子たちであった。

Ki Ageng Pemanahan は Sunan Kalijaga とともに約束の実行を迫った Sultan Hadiwijaya に Mataram の土地を褒美として与えられた。1532 年に、Ki Pemanahan はそこで最終的に Ki Ageng Mataram となった集落を開拓し始め発展させた。死ぬにあたって Ki Ageng Pemanahan は、彼の後継者を息子の Raden Ngabeji Loring Pasar とする遺言を与えた。

父親の Ki Pemanahan からの依頼と Pajhang のサルタンの加護で、Sutawijaya は父親を支配者あるいは Panembahan Mataram として交替させた。Pajang のサルタンが彼に Senopati Ing Alaga Sayyidin Panatagama という称号を贈った。Panembahan Giri と Sunan Kalijaga 候に言われたように、Ki Pemanahan は後でジャワの土地を支配する大王になる。父親のように Raden Ngabehi Loring Pasar、Sutawijaya、はこの二人の長老たちの星座占いの正しさを常に追求することになった。

真夜中に向かおうとするとき、Sutawijaya は五人の護衛兵とともに宮殿を抜け出して Lipuro に向かった。Lipuro には Senopati が熟考する時によく使っていた平たい岩があった。そして続いて、熟考に適した滑らかな表面をもつ黒い岩である Kumuloso の上で寝たのであった。

他の場所で、Sutawijoyo を指導するために Ki Pemanahan によって差し向けられた長老の Ki Juru Mertani は失望して Senopati に会うために Mataram の都に向かった。しかしながら Senopati に会うことはできなかった。そこの守衛に尋ねてみると、夕刻から日没まで Panembahan は外出していて、その外出先を守衛は知らなかった。しかしながら、Ki Juru は彼の甥がどこに出かけたのかは知っていた。Lipuro に到着して、熟睡している Sutawijaya を捕まえることができ、「Tole、起きろ。お前は王になろうとしているといわれている。ここでのうのうと寝ていていいのか」と言って彼を起こした。ヤシの実ほどもあるおおきな星が Sutawijaya の頭上に落ちようとしているのを Ki Juru Mertani は見たのだった。Ki Juru Martani は驚いて、

彼を起こした。<131>「Tole、さっさと起きろ。頭の上にある月のように輝くものはいったいなんだ?」

つづいて Senopati は身構えてそれを見つめて「寝ている私を明るく照らすお前はいったい誰で何なのか?寝ていた間はお前を見ていない」と尋ねた。

「知っての通り、我はお前を指導する星であり、アッラーに気に入られようとへりくだった心で熱心に瞑想をしていた意図は既にアッラーに受け入れらたことをお前に伝える。お前が神の許しを得ようとした、ジャワの土地の王にお前がなることと、孫子の世代まで比類なきマタラムの王になることである。黄金と宝石をたくさん持ち敵に大変恐がられる。マタラムの支配を終わらせるひ孫の時代、国は割れてその後粉々に砕ける。しばしば日食と月食が発生し、流星が毎晩見られ、火山は噴火し、火山灰と噴石が降ることになる。これは国が崩壊する前兆である」このように言うと星は消えてしまった。

Sutawijaya は心の中で繰り返し「今、アッラーに対する願いは聞き届けられた。私の目的は(Pajang)のサルタンの代わりに王になり、孫子の時代までジャワの土地の灯となりジャワの人達全てが私にひれ伏すのだ」と唱えた。

Ki Juru Mertani は、この甥っ子が心の内で何を考えているのかを悟り、彼は優しく話しかけた。「Senopati よ。まだ起きてもいないことを決めてしまうような高慢な考えであってはいけない。それは正しくない。星の言葉を信ずるとしたら、それは間違いだ。あれは霊界の声であり、正しいことあり正しくないこともある。人の言葉のように捉えてはいけないし、お前がまさしく Pajang の人達を敵に回して戦う時は、あの星はお前に託そうとしないしお前もあの星に援護を求めないことは確実だ。すべてに自分自身で対処するお前と私であることは確かだ。勝利すればお前は間違いなくマタラムの王になり、戦争で負けたら逃れることはできないし捕虜になるのだ。」

叔父のこの言葉を聞いて、Senopati はようやく気が付き、謝りの言葉を忘れなかった。そしてその後 Senopati は「叔父様、あなたの指示はいかがですか。お言葉に従います。例えば私が一艘の船で叔父様が船頭です」と述べた。その後 Ki Juru Mertani は続けて「Tole、お前が私の忠告に従うと決めたのなら、すべての

困難なことをやすやすと簡単にできるようアッラーに祈ろう。ハディースに従ってこの祈りを唱えよう。偉大なアッラー。我が向かおうとしている全ての件に対して力を与え給え。〈132〉この祈りに対して強固な土台を与え給え。それ以外に我々がとみに努力することを。種々の職務を与え給え。アッラーの希望を伝えるためにお前が南の海に行くのなら我はメラピ山にいこう。一緒にでかけようではないか」。

二人は合意の上で分かれた。Ki Juru Mertani はメラピ山に、Sutawijaya は東に向かって Opak (Pmpak)川を目指し川に飛び込み、流されるままに南海に向かった。昔語りの話によれば、この川には、以前に Senopati に助けられたことがある Kiai Tunggul Wulung という名の大蛇がいた。この蛇が Senopati を海に連れて行き Sawangan で停止した。ここで彼は瞑想を行いその後海に入った。Senopati はアッラーに十分すぎるほど自己を対面させる苦行を行った。Senopati は水にぬれず、海の水は大きな波になったがぴちゃぴちゃと音を立てただけであり、これは海の全ての生き物に災いをもたらした。

暴風が来襲し木々は倒れ、ぞっとする音とともに山のような波が押し寄せ、海水は煮立ち沢山の生物が死んだ。南海の宮廷は混乱し海の住人たちは騒ぎ出した。この住民全員が、Senopati Sutawijaya が祈ることでその理想を叶えようとした理想と情熱による熱波に触れたからであった。この事件は、Kahyangan Dlepih の宮廷にいる南海冥府の女王である南海の女王の臣下の不安に影響を与えた。

この南海冥府の女王は彼女の宮廷から出て外の世界を見まわした。一人の若者が彫像のように立って自分の理想を叶えられるようにアッラーに向けて熱心に祈っている姿以外には何も見えなかった。南海冥府の女王はすぐにその若者に近づきひざまずいて Senopati Sutawijaya に恵みを垂れるように願ったのだった。

「ご主人様、この惨状を直ちになくすことでご主人様の悲しみをなくし、海にあったものの破壊を元に戻し、海の生き物たちすべてを幸せにしてください。私が守っている海ですから私を哀れんでください。ご主人様が神に祈ったことはすでに受け入れられています。ご主人様と孫子の世代はジャワ全土を支配する比類なきは王になります。〈133〉ジャワの土地の精霊や悪魔、天女、Perayangan はすべ

てあなた様に平伏しましょう。あなた様に敵対者が現れた時にはこれらすべてが支援します。あなたのどのような希望にも彼らは従います。なぜならばあなた様はこのジャワの土地の最初の王になるのですから」と。

南海冥府の女王は誘うようなそぶりで一礼して海の中に帰ってしまった。Senopatiは南海冥府の女王に恋に落ちてしまったので陸上を歩くように海面を一行とともに歩いた。南海の王宮に到着すると Senopati はその全ての美しさと楽しさに惹かれてしまった。彼は性質の違いによって心を乱されないようにしようとしたが常に南海冥府の女王の側にいた。南海冥府の女王も Senopati の状態を察知していたにもかかわらず彼を誘い続けた結果、Senopatiはsanepo（南海冥府の女王のベッドを見たい)という言葉を吐いたのだった。

南海冥府の女王はさらに「恥ずかしがることはありません、どうぞ。お待ちしていました。あなたのものです」と述べた。その後、南海冥府の女王はSenopatiと腕を組んでベッドに向かった。南海冥府の女王の美しさを見たことによる痛みのくすりを所望するとととともにこのように美しい宮殿と部屋に男性がいないという比喩を返した。もっとたくさん美しい女性がいるといいながら南海冥府の女王はちらっと流し目を使った。

この二人は愛し合っていたので、後日南海の宮殿で結婚した。結婚に続いてSenopati は南海冥府の女王をベッドに連れて行った。そこで二人は一緒になったのであった。

	Panembahan Senopati と Sultan Agung を含むジャワの諸王たちの神秘的な顧問として信じられている Sunan Kalijaga

〈134〉

Panembahan Senopati は南海の宮殿に三日三晩滞在した。この間、Senopati は

大国の支配の方法や人民や生物を先導する方法などの指導をずっと受けた。この指導が十分と感じて地上に戻ろうとする時にSenopatiは「例えばMataramに敵が現れた時、だれが女王様に連絡するのですか?Mataram の人達には女王様を見ることができる人はいませんから」と言った。

南海冥府の女王は「それは簡単です。あなた様が私を必要とし私を呼ぼうとする時には、腹部に手を置いて空を仰ぎ見つつ心を澄ませるべく瞑想しなさい。私は必ず完全武装した霊界の軍隊を引き連れて貴方のもとへ参ります」と答えた。

その後SenopatiはMataramに戻るための挨拶をした。Senopatiは海中から現れ、軟らかい地面を歩くように海面を歩いた。Parangtritis に到着すると、Sunan Kalijaga 候がそこで座って熟考しながら待っているのを見て Senopati は驚愕した。Senopati は Sunan Kalijaga に近づいて熟考し、海面を歩いて濡れなかったことについて許しを乞うたのであった。

Sunan Kalijaga 候は「Senopati よ。使命を必死に追いかけるではない。水面を歩けるという超能力を見せつけることは止めなさい。それは高慢な行為である。諸伝道者は、アッラーの怒りに触れるから、このような方法を好まなかった。お前が王になろうとするなら本当に人が歩くように歩き、創造主として感謝すべきだ。さあ一緒に Mataram に行こう。あなたの家を見たいのだ」と述べた。

二人は Matram に向かった。塀に囲まれてない Senopati の家を見て Sunan Kalijaga は「君の家が煉瓦塀で囲まれていないのは良くない。超能力を信用し、強い超能力のためにお前は疑いなく高慢な奴と呼ばれる。放し飼いの牛や水牛は好き勝手にあちこちに行ってしまう。これらの牛や水牛は縄で縛るのがよい。夜は牛舎に入れ、外ではアッラーに従う人に見守らせる。このようにお前は家を建て、土の塀と呼ばれる壁を用いるべきである。<135>Mataram の人々には乾季に日干し煉瓦を作らせよ。煉瓦が十分たまったら町を作れ」と言った。

Sunan Kalijaga は土でできた水差しをとりあげた。その後、Sunan Kalijaga はクルアンの暗誦をしながら、家の壁や次の間などの境を Senopati が分かるようにこの水差しに入った水で印をつけた。その後 Sunan Kalijaga は「汝が町を建てるときにはこの水差しの水で描いた境に従え」と言った。Senopati へのアドバイスであっ

た。Senopati は承知し、Sunan Kalijaga はその場を去った。

上記の南海冥府の女王とPenembahan Senopatiとの結婚は、Mataramだけの支配であるという象徴的なものであり、陸と海との一体化と理解できる。水と土のシンボルはMataramの豊穣と平安を象徴するだけである。上記の関係は、Mataramの後継者すべてをカバーしてはいない。このような考え方を未だに保持しているのは Yogyakarta のサルタンと南海だけになっている。Surakarta と南海の間にも関係があるが、Sunan Pakubuwono X 世の時代以降は断絶していて、Surakarta と南海の女王とは夫婦ではなく母子の関係と考えられている。

第三節　Panembahan Senopati と南海冥府の女王との物語の意味

Panembahan Senopatiと南海の女王との邂逅に関する神話はWoodwardの解析によると、それは Mataram の宮廷の信仰における神話の複雑性に重要な部分を占めている。〈136〉アッラーの希望と霊的存在の強さという宮廷支配の基礎となっている二つの証拠が存在すると彼は解説している。この神話は Yogyakarta とその周辺のジャワ人達によく知られている。都市部のみならず農村部からでも収集されたこの件に関するいろいろな神話は Babat Tanah Jawi に見られるものと大変似通っている。この話は、神秘的な行動をとる際の容器としてのイスラムの規範的運用と生れながらの使命と啓示、神秘と超能力、そして神秘的な行為に対してイスラムの規範を下位におくという、Mataram 宮廷の信仰とジャワイスラムにとって大切な三つ観点の一般的に説明している。

Sunan Kalijaga が Senopati を批判したのは Senopati が自分の街づくり、特に王宮の謁見の間、を行う前に町の城壁を作らなかったためである。ここで忘れてはならないのは Babad の最初の部分で Sunan Kalijaga も苦行を行ったと書かれていることである。この部分の意味はこのように目で見えるものよりもずっと複雑なのである。イスラムの伝道者が神秘的行為を行うことに対して彼はある種の否定を与えたのだった。Babad にあるように Syekh Siti Jenar はアッラーとの合一に至ったのち、苦行の最中に出会った一人の王がこの伝道者と交代すると予言した。Senopati がその王であった。この部分を理解するためのカギは Senopati が宮殿の周りに塀を

作りそこなったことである。ジャワの宮廷建築では、塀が宗教的のみならず軍事的にも重要な意味を持つのである。その一つの機能は霊の強さの入れ物になるということである。この塀は王の超能力を守り、無秩序に外部世界にそれが放たれることを禁止しているのである。

このことには二つの理由が存在する。一つ目は、この超能力を制限しないと際限なく自然界に広まってしまうからである。二つ目は大きすぎたり広まりすぎた超能力は制御が聞かなくなる危険があるからである。

ここで民族誌情報が上記の文の解釈のカギを与える。宮廷などの情報提供者によると、王の仕事の一つは正しい慣習を宮廷から一般社会に広めることである。王は、王国の安定と繁栄を守るために必要な超能力現象の規模とどの種類を用いるかを厳格に決めなくてはならない。〈137〉どこでどの宮廷の遺産が展示されるかあるいは宮殿への定期的な参詣の可能性を公開するかという宮廷の伝統儀式を通じて超自然現象は広まる。

宮殿は Yogyakarta では最重要な参詣先の一つである。何時そしてどこで宮殿からの超自然現象がしみ出すかについてはたくさんの説がある。しかし、まずは木曜日の真夜中がその時であるとたくさんの人達に信じられている。神秘主義者で財務省の高級官僚の一人はWoodwardに、この超自然現象は宮殿の北端が発生源であると説明した(1999)。塀の近くのとある場所で一か月間の毎週木曜日の真夜中に、王は苦行を行うために過ごす。一方、別な人はその場所ではないと信じている。木曜日の真夜中にはジャワ全土から超能力者の数百人が宮殿の周りを取り囲んでサルタンのおこす超自然現象を少しでも見ようと朝まで過ごすのである。

インドネシア革命(独立)以前には一般人が宮殿に入ることが許されていなかった。しかし、現在ではインドネシア人や諸外国からの観光客に宮殿の大部分を解放しているが、いまだに部分的に閉鎖されている箇所がある。定額を払うことで伝統的な衣装を身に着けたガイドが宮殿の各部分を外側から案内する。ガイドたちは歴史の荘厳さに関するすべてと宮殿の各建物の神秘性、サルタンの超能力の必要性を重点に置きながら解説するのである。

王宮の塀に関する神話の中で注目すべき点は、Senopati が苦行をし、それも将来建設する塀の境の上で行ったゆえの Sunan Kalijaga の Senopati に対する批判である。Senopati へのこの批判は Senopati が王宮の塀を作るまえに苦行を行った間違いを示している。とあるバージョンによると、この批判は Sunan Kalijaga が Syekh Siti Jenar と Kiai Mutamakkin あるいは Syekh Cabolek に示した批判と同様に重要なものである。彼らの超自然現象の実行が問題になった要因は、その入れ物が存在しないという規範的誤謬であった。〈138〉この件とイスラム伝道者(wali)によって建てられた塀という事実は王宮内の神秘主義の入れ物を構成する条件になっていることを示している。Babad Tanah Jawi に四分割されている Sunan Kalijaga を通じた変態が述べられているのも重要である。最初の話では、彼はメッカ巡礼を行うことを希望するイスラムに入信したばかりの人として描かれている。Syekh Maulana Maghribi に出会った後、彼は自分自身を苦行に集中させる神秘論者として描かれている。Syekh Siti Jenar の裁判では彼は判事の一人としてイスラム法を施行する長として描かれている。最後の話では彼は宮廷での宗教指導者となり、苦行を第一とするサルタンの顧問になった。Demak の時代から Mataram の建国をつないだ Sunan Kalijaga のいろいろな立場では批判的な態度をとらなくてはならなかったことは確実であり、本件はより深く研究する必要がある。さらには、別本では Sunan Kalijaga は Sunan Kalijaga に間違いを教えていな Syekh Siti Jenar の弟子であり娘婿であり、後日 Sunan Kalijaga は自分自身で「更生」したと言っている。(Sholikhin 2004;2008)

Woodward によると(1999)、最初の二話と第三、四話と Serat Cebolek を比べることで神秘主義と、Wali からサルタンへ手を経たイスラムの誤った決まりがみられる。Serat Cebolek では Mutamakkin に対する裁判行ったのはウラマ(聖職者)ではなく Sultan であると書かれている。このようにこの物語の最後の部分に神秘的な支配として描かれている。これらすべては、最終的な宗教による自治としてとらえられる聖職者政治ではなく Mataram 王朝にサルタンが存在すると信じる民族誌を支えているし、それを指し示しているのである。この件も、イスラムの規範の敵としてのイスラム神秘主義に優越性を確固たるものとしている。最後に、宮廷の神秘性を保持するために宮廷に塀を作る件で、これはウラマたちの規範としての入れ物を与え

るという仕事になったことを明確に指し示している。

さらにこの立場に対する支持は Serat Cebolek の中の王宮建築物内のモスクの位置と宮殿内での儀式におけるイスラム聖職者(santri サントリ)の役割に見られる。Serat Cebolek は、王宮の行為のためにサントリの偉い人を選ぶことが必要だと述べている。〈139〉彼らの仕事には「宮殿内での瞑想の場所を守護すること、サルタンに対する奥義に達した知識を伝えることができること(Soebardi 1975:100)」がある。イスラム聖職者の長 Anom Kudus はウラマの業務として次のように描いている。

> 息子たちよ、確かに王は世界の中心である。王は体制の中核であり、このように例えられる。王の部屋で起きたすべてのことで王を守護する義務がその人にあることは正しいのである。王の業務とは身体に忠告を与える心の作用のようなものである。王の過ちは世界中の人が背負わなくてはならず、それは王は世界の中核であり、心が長い病に落ちた時には身体もこなごなになってしまうからである。(Soebardi 1975:84)

伝統的に宮廷で愛顧されることはサントリたちの社会における地位の源の一つを構成している。高名なサントリは土地を与えられたり、ラマダン月中、クルアンを読誦したり金曜礼拝のために宮廷に招待されたりする。彼らは宮廷での伝統儀式の交代を指導するように依頼されるが、ムハンマドの誕生記念に宮廷で行われる神秘を指向する伝統儀式には関与しない。この儀式の際にサントリはクルアンを読誦することを求められるだけでその後は大衆との礼拝のためにモスクに戻るのである。かれらは、サルタンが慈善として食べ物を与える儀式は何であれ臨席しないのであるが、宮廷のモスクで待つ人たちの群れにこの食物を分配するのは彼らなのである。Woodward の記録で(1999)、植民地時代において、かれらとは宮廷のモスクの使用人とサントリの中での高位のもの重要な位置を占めている宮廷内の参詣所の番人であると言っている。サントリ abdi dalem は少なくとも高名なキアイと同様な地位を占めていた。この職位はサントリに握られていた。このようではあるが、宮廷が政治経済的に没落することで彼らへの影響も地に落ちた。このため abdi dalem の給与はひどいインフレがあったにもかかわらず 1945 年以降上がっていない。番人の一人は、かれがこの職位にあった時はその月給で彼は村一番の金持ちだったが、今になってはこの金でタバコひと箱買うのも難しくなったと言っている。

〈140〉しかしながらこの職位は名誉職として今でも続いていて、ジャワ人の感覚の世界においてサルタンに近いことは神の恩恵となり神に近くに寄るというように理解されている。

宮廷のモスクは宮廷の外に設けられている。寝殿や応接殿、瞑想所を取り囲む塀の外にサルタン個人のモスクは存在する。

これらの事実は宮殿建設の神話と同様に、サルタンが宮廷の神秘的な中核であり、信心深い規範の入れ物でそれを囲んで守護し維持するためのサントリの仕事になっている。反対に言うと、ウラマの純粋さと彼らを通じての信心深い規範の入れ物を存続し維持することがサルタンのしごとになっているのである。

第四節　ジャワの文献における南海の女王:予言と神秘主義の歴史の間

歴史文献の中では、預言が王朝の交代を正当化するために利用される一つの方法として利用されている。Babad Tanah Jawi[15](例えば Manngkunegara の文献からSantosoがインドネシア語に訳した(1979)Babad Tanah Jawi)中、例えば、マタラム王国の建国やジャワの王朝がイスラムに改宗したことを正当化するため繰り返し予言が利用されている。マタラム王朝の理論による最も重要な予言の一つは、Gusti Ratu Kidul（貴族である南海の女王)はジャワ南岸の海の女王であり、南の地域の守護神であるとともに上記の王家の全ての王の妻であるということである。その前に、彼女は伝説の中で Hindu が入る前の神話上の王であるる Galuh 王の姉妹として知られていた。

南海の女王が生まれる時、王国の隅々にまで聞こえるような声の天女にその母は看護されていた。これと同時におどろおどろしい全ての場所に魑魅魍魎(goro-goro)が登場した。ほかの霊たちは王に拝謁するために来訪し、彼らはその子への尊敬として自分自身を犠牲にしてほしいと願った。生まれてすぐ南海の女王は「われはジャワ全土の霊を支配する王女である」と言った。長ずるに応じて、南海の女王は私の孫でありかつまた我々が到達できない支配者だと Sindula 王は

[15] 原文では Babad Tanah Jawa となっていたが、これは Jawi の誤植だろう

進んで話したのであった。〈141〉その予言によると、将来、ジャワ全土を支配し王国の宗教としてのイスラムを確立するマタラム王朝の創始者と同女王は結婚するということであった。この予言は、落雷と天人天女たちの同意のしるしである霊の声を伴っていた。(Santoso 1979:17-22)

この予言は、上記の Babad Tanah Jawi の終わりの部分に何回も繰り返されている。最終部分には南海の女王はマタラム王朝の創始者の Panembahan Senopati にアッラーはジャワ全土を支配するという意図をお許しになると伝えたとある。この件は、16 世紀初頭の信仰と政治の基準に違反するイスラムへの改宗のようないくつもの、事件に対しての信仰の正当性を与えるものである。神話時代への歴史を投影することでマタラムは正統性を持つ王朝として歴史に存在し前ヒンドゥーの支配者たち、本当はジャワの霊界、により権威を委譲された支配者に上ったのだった。

歴史の文献の中で予言を紹介することで、ジャワの詩人たちは証明されるべき事実と過去の偉大な人物たちとの関係を通じて彼らのスポンサーであることを確信したのだった。本当は預言書は将来のことを現在の支配から導き出されるものとして描くことで同じ目的となるのである。歴史上の伝統行事への予言の一体化は「協調」として Barr が述べた(1977:55-72)一例なのである。協調は、実際に起きた出来事と同じ筋道の物語上の出来事に至る目的と聖書を正当化するための手触りの解釈となるのである。ジャワの文献においてこの解釈の形は、前ヒンドゥー時代にまで広がる血統において諸王朝をそれに当てはめるためと新王朝の登場の正当化に使われている。予言は、時間的にも地理的にも大きく異なる王国に関しての説明の「調和」のために使われている方法である。〈142〉この件は、それ以前の諸王朝との系譜上の関係の不足、あるいは政治経済的環境に対する不足も見られることで問題とされる王国の正統性とその支配に関して最重要な点である。たぶんこの理由からか、諸預言書を含む植民地時代の文芸作品が多いのである。これまでに述べたように、預言書は 18 世紀から 19 世紀初頭のまでの文芸作品で大きな役割を演じている。この圧力は実際には、ジャワの文芸における伝統的期間[16]の最後まで続いたのであった。

[16] 文芸復興の意味か

18 世紀以前には西洋の概念での「歴史的」と解釈できるジャワの文献は存在しなかった。この考えは 18 世紀の中葉のジャワの二つの王朝の成立によってやや変わった。De Graff (1956)と Ricklefs(1974,1982)は、政治史研究のための資料として使うことができるいくつかの 18 世紀の babad(伝承)を示している。Ricklefs によると事実 18 世紀の初期にはジャワの王宮で盛んになった伝統的歴史研究が存在した。彼は、同時代のオランダの資料と比較することで確認できる情報や出来事が書かれた上記の時代の別な文献や Babad ing Sangkala を指し示している。これらすべては、神秘的解釈の方法をとった歴史の専門性と印象付けられた傾向にあったから長くはもたなかった。[17]一方、ジャワの宮廷詩人たちは、babad あるいは神秘的な予言書を編集したのと、神秘主義と宇宙観から歴史を批判する古代ジャワから伝わる文献である Serat Sekander や Serat Putra Raja のような解説書と同時期にこの歴史文献をしばしば書いた。(この件でジャワの信仰で Serat Sekandar がオランダ戦争の時に注意を与えていることを知っておく必要がある Ricklefs 1974:362-414、 Serat Putra Raja は神秘的系図文献である)。他にこれらの文献はマタラム王朝と南海の女王、アレキサンダー大王、スペインとオランダ王国の宮廷を結びつけている。

Ricklefs は(1978)、色々な出来事は時代とともに記憶がぼやけていくほど、babad が神話的になる。<143>彼はこの件と歴史知識の紛失と文学の基準を含む劣化を結び付けている。心配する必要はなく、18 世紀の初頭の戦争が続いた間に見えなくなった歴史知識がたくさんある。しかし、神話の文献とそれと並行する歴史の発展を見ると、Ricklefs が文書化して論議した歴史から神話への変異を推し進めたのは決してこの要素だけではないとみられる。そこに見られるのはより正確には、18 世紀における大多数のジャワ人たちは史実の正確な記録より歴史のの神話的解釈により深い注意を払っていたとみられるのである。

さらに、Ricklefs が分析した歴史文献のうちの少なくとも一つは、歴史であり神話として見ることができる。Babad ing Sangkala はその意味を持つ言葉の暦年表示の集積である。言葉によったりあるいは、竜やガルーダやその他の神話の絵の利用はすでに人口に膾炙した文献や構築物の記録方法である。実際には歴年表示の

[17] 原文意味不明。

意味は資料の簡素化ではなく、その神秘の強調化に関する活用を伴う資料とするほうが近い。それゆえに、ジョグジャカルタの王宮や王宮内モスクを彩る Babad ing Sangkala のような文献あるいは暦年表示は歴史と神秘主義との合体方法として読み取ることができる。この件は、正確な歴史でありさらにはより重要な神秘の解釈の対象となる大多数の文献はそのすべてが上記の解釈を確立する意図的方法で書かれているのである。

Woodward (1999)によると、同年代の資料も歴史の神秘化は文学の衰退に影響されたという Ricklefs の議論を疑わせる。同時代のジャワ人はインドネシア革命に関する「歴史的に見て正しい」資料をたくさん持っていた。ジョグジャカルタの王子が書いた現代的 Babad は、Hamengku Buwono IX 世の一生に関しての議論の中でオランダとインドネシアの資料を正確に採用している。しかしながら、これらの材料に親しいとはいえ人々は確かに神秘主義的あるいは神話的観点からしばしばこの革命について語っているのである。〈144〉革命闘争に巻き込まれた人たちを含め、ジャワ人の大多数は Hamengku Buwono IX 世とスカルノ大統領の魔力の融合がオランダを打ち負かした最大の道具であったことを本当に信じている。いくつかの説は南海の女王と霊界の軍隊がインドネシアの強さを支援したとし、その一方、他の人達は Allah がこの闘争に直接手を下したと信じている。

遠い昔にたいする神話の解釈だけがまだ存在している理由が注意に値するのである。ほんの一部ではあるが、この件は未だ保持されている文献という史実と結びつけることができる。ジャワヒンドゥー時代とイスラム時代の初期にわたり正確な歴史は書かれていたが、その後現在のようにジャワ人たちの注意が世界観的なものに付随した神話の記載の方に行ってしまったからであり、この伝統が今まで続いているのである。現在に至るまで教育を受けたジャワ人にこの文脈こそで南海の女王に対する信仰がなぜかれらの視点を確かに彩っているかを理解できるのである。

2008 年に Purwokerto で行われた「ジャワ文化世界会議」の開催の発起人(nara sumber)に著者がなった時、多数の学術的論文があり、南海の女王の存在を確信している高等教育を受けた人がいた。ジャワの文献の神話学の比較検討以外に、教育ある人たちの論理でかつまた信仰のやりかたで、まずはジャワ人に侵攻

されているイスラムの信仰の確信の基礎となっている霊界の現象に対して信仰を持っている彼らはスピリチュアルの実行者となった。

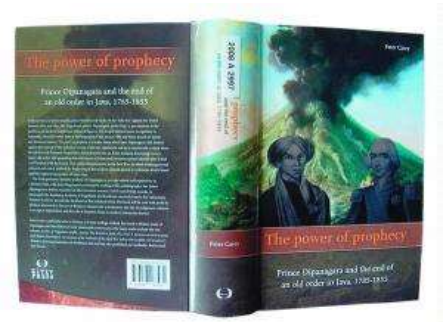
第五節　Babad Dipanegara における南海の女王と Diponegoro 王子

中部ジャワに伝わる伝説の中で、反オランダ抗争(1823-1830)を行ったのと同じ時期、南海の女王と共闘したのが Diponegoro 王子であったと信じられている。同王子はしばしば Parangkusmo で隠遁生活を送っていた。ジャワ神秘主義者のいくつかの論文は、反オランダ抗争を行っていた時 Diponegoro 王子は Parangkusumo で世を避けていたとのべている。〈145〉この機会に Diponegoro 王子は、自分の武具として Keris Sarotaman と呼ばれて知られている、南海の女王からから賜った cundrik=小さなクリスを使った。

この小さなクリスは Diponegoro 王子が Parangtritis で沐浴をした後得られたものであり、その後隠遁生活を行うとともに Parangkusumo にある Watu Gilang という石に立てかけられた。ジャワ神秘主義解説によると、この隠遁生活中に、オランダから与えられるいかなる地位を望んではいけないという Diponegoro 王子に忠告した南海の女王からの見えない声が聞こえたとのことである。

この声が消えた後、Diponegoro 王子の前に空から白い光が落ちてきた。事実、この白い光が上に述べた小さいクリスを運んできたのだった。この宝物は Sarotama という名を与えられた。この小さいクリスを持ったことで Diponegoro 王子はますます情熱が高まった。

Diponegoro 王子と南海の女王との共闘の問題は学術的また大学の知性の論文から認知されていたとは言え、この伝説には疑問の余地が残る。Babad Dipanegara においてこのジョグジャカルタの貴族が神秘的な行動について告白しており、その一つは南海の女王とのスピリチュアルな出会いであることから、この認知は確かに基礎となることは確かである。約 40 年間もかけて神秘的な慣習を含め Diponegoro 王子の実態を研究した Peter Carey が後日精査したのがこの事実である。



Peter Carey 著 The Power of Prophecy。文中には Diponegoro 王子と南海の女王との邂逅の逸話が盛り込まれている。〈146〉

2007 年 12 月に、英国の Trinity University の講師であり研究者である Peter Carey が書いた The Power of Prophecy「卜占力」が欧州で出版された。2008 年半ばには第二版が出版された。この本は完全な Diponegoro 王子の生涯(1785-1855)が盛り込まれている。この本こそが現在に至る中でも最も完全な伝記であり、ジョクジャカルタの宮廷の王子の闘争に関したと言うことができる。Carey の意見の中で、Diponegoro 王子は聖なるムスリムであるがジャワ人の世界観に影響されていて反オランダ闘争(1825-1830)に燃えた人であった。この戦争は、ジャワ全土を巻き込んだため、英語では The Java War,蘭語 De JavabOorlog)、オランダ人にとって最大の戦争と理解されていたためジャワ戦争として名高い。歴史家が引用したオランダの資料は、この戦争で 20 万人の命が失われたと述べている。一方オランダ側の死者は 8 千人に上った。Carey のこの作品は実際には、その以前 1975 年に Oxford 大学で発表した Pangeran Dipanegara and Making of Java War, 1825-30 という論文より広い範囲の研究であった。

Kompas 紙 2008 年 10 月 27 日月曜日の Suryadi の記事によると、上記の本は、オランダのジャワの地に対する最も永続的な併合相手のジョグジャカルタ宮廷の貴族であった Diponegoro 王子の生涯について深く研究したものである。欧州植民地主義の力が、イスラムとジャワ民族主義の二つの力がオランダに対する正面的対立を推進したことを伴い、永久的にジャワの古い体制を破壊してインドネシアを叩きのめした時代である 18 世紀の末から 19 世紀の初めにかけた政治的混乱のなかにいた Diponegoro 王子の生涯を彼は描いたのであった。この本は、Diponegoro 王子をその主役にして、ジャワ戦争とそれに巻き込まれた全ての役者の歴史的文脈を研究したものである。

この本は 12 章で 84 枚のイラストと 11 枚の地図、参考資料と原資料を記した

2,260 もの脚注、生まれてから育ってその人生を確立した歴史と社会、政治などの文脈を含んだ Diponegoro 王子の家系の地位を読者が理解するための 16 もの添付書類を含み 1000 ページにも達している。〈147〉

Carey の研究のバックボーンとなったものは、Diponegoro 王子自身が Manado で書いた pegon (アラビア文字で書かれたジャワ語)の Babad Dipanegara の写本の自叙伝であった。著者(Carey)は、他の地元の資料以外にもオランダと英国の記録、特に現在ジャカルタの国立文書館に保存されているスラカルタとジョグジャカルタ居住区(keresidenan)発出の植民地時代の書類コピーも活用した。上記の本を編集するために Peter Carey は歴史家やジャワ戦争の戦前、戦中、戦後における Diponegoro 王子の足跡をたどるなど多数の件を実行しなければならなかった。それどころか、Diponegoro 王子が瞑想を行った場所の Goa Secang, Selarong, Bantul で徹夜したことをはじめとして現地調査を行った間にジャワ風な神秘的慣習儀礼をおこなわざるを得なかった。この本は約 30 年間にわたってかかれたものである。

確かにこの本の内容は Diponegoro 王子と南海の女王との関係にとくべつにスポットを当ててはいない。第一章から第三章まで、この本は、Diponegoro 王子が生まれ、そして育って青年になった 1792-1825 年の間のジョクジャカルタの状態に関連したいろいろなことを解説している。また、その当時の農民の生活、税制、官僚主義、それがジャワの社会政治の弾力化に影響した農民からの搾取をはじめジョクジャカルタの王宮の支配組織とそれを支える軍隊の進歩について述べている。Carey も Diponegoro 王子が子供だった時代から Daendels がジョクジャカルタの宮廷を手に入れた時代で、直接的かどうか、この後の三章で解説する Diponegoro 王子が、不信人もので背教徒であるオランダとの「聖戦」に燃えることを後押しした 20 歳台までをたどっている。

Diponegoro 王子はジョグジャカルタサルタン国で生まれ、幼名は Bendara Raden Mas Mustahar で、長じて Raden Antawirya となり、色々な神話が伴っているとともに Diponegoro 王子が幼少時を過ごした Tegalreja 村での社会環境について第二章に描かれている。Diponegoro 王子が生まれた時、彼の父親の Hamengku Buwono III 世は 16 歳を過ぎたばかりで母親の Raden Ayu Mengkarawati は 15 歳

になったばかりであった。Hamengku Buwono II 世の母親である祖母 Ratu Kedathon はマドゥラの Cakraningrat II 世の子孫である故 Diponegoro 王子の体にはマドゥラの血が四分の一流れていた。

Diponegoro 王子の青年時代とその生涯を開始して成人した 1803-1805 年については第三章に描かれている。Carey は、ヨーロッパ人との関係を含め Diponegoro 王子の風貌や性格、知的能力、与えられた教育の過程、文学とイスラム宗教知識への関心について書いている。1804 年、19 歳の時 Diponegoro 王子は、Slemen 地域の Dhadhapan 国領主 Kyai Gedhe Dhadhapan の娘の Raden Ayu Madubrangta と最初の結婚をした。

Diponegoro 王子

その直後の第四章では南海の女王との邂逅に関するきわめて興味ある件が議論されている。この章で Carey は、南海岸の修行場への Diponegoro 王子の肉体的で精神的な足跡を描写している。この参詣と隠遁中のある時、Langse 洞窟で南海の女王と Diponegoro 王子の邂逅があったと Carey は記している。<149>こここそが、ジャワの土地が没落するジョクジャカルタのサルタン国を破滅させる不幸がやってくると忠告した Sunan Kalijaga の声を王子が聞いた場所ということだ。Diponegoro 王子も、将来に演ずることになる歴史的役割に関する神秘的なメッセージをここで受け取った。Diponegoro 王子の参詣は 1805 年の末に終わり Tegalreja に戻った。この期間中に南海の女王と会った時、上に述べたように同王子が小さなクリスを与えられたという可能性は否定できない。

この後の二章で、参詣中に Diponegoro 王子が受け取ったメッセージである、オランダが中部ジャワを征服したと Carey は描写している。HW Daendels 将軍・総督に率いられたこの征服の過程は、第五章に詳述されている。

ジョクジャカルタのサルタン国に対する併合は貴族の間とイスラム指導者たちの間に反オランダ抵抗運動を引き起こした。1809 年には Rongga Prawiradirja III 世に率いられた反乱が勃発した。第六章ではこの反乱の背景と政治的影響について検討している。Rongga 候は Bengawan Solo の川岸の Sekaran で 1810 年 12 月

17 日に殺された。

第七章は、ジャワにおける Franco-Dutch 支配の崩壊に伴うジョクジャカルタのサルタン国に対する英国による「凌辱」について述べている。ジョクジャカルタは 1812 年 6 月 20 日に英国の手に落ちた。第八章に述べられている社会政治への影響を伴って、たった 5 年間とは言え国民を悲劇に突き落とした、ジャワにおける英国支配の浸透の過程であった。第九章は、1816 年に英国が退却した後、the south-central Java の社会政治の動きを描いている。Carey は、さらに国民を貧困化させた 1822 年まで続く社会、政治、経済分野におけるオランダの各種の新政策を描くためにこの章に Binding on the Iron York = カナトコに縛られたという題を与えている。

ジョグジャカルタの貴族の間での衝突は、第 10 章に述べているジャワ戦争勃発の引き金になったファクターで、ますます鋭くなってきたオランダの併合に影響を与えた。ジョクジャカルタでのオランダの支配に反対する Diponegoro 王子とその同調者たちは Tegalreja に移動した。それに並行して、Ratu Adil (公正の女王)の登場に関する Jayabaya の予言の予兆が現れるとともに 1822 年 12 月には Merapi 山が噴火した。

Diponegoro 王子の軍隊の基地となった Tegalreja は 1825 年 7 月 20 日にオランダと地元のその同調者たちに襲われた。Diponegoro 王子と彼の軍隊ははるか前に Guwosari Panjangan Bantul の Dusun Kentolan Lor にある洞窟の Selarong に退却していたのでかれらは Diponegoro 王子をとらえることに失敗した。Diponegoro 王子はこの洞窟の西側にあって瞑想の場所にもなった Kakung 洞窟と呼ばれる洞窟に居を構えた。一方、二人の妻が無くなった後に同王子に最も忠実に従った愛妾の Raden Ayu Retnningsih とその侍従たちは東側にある Goa Putri に居を構えた。この戦いがジャワ戦争の口火となった。1825-1830 の戦争中、戦費の調達と社会政治の結果は第 11 章に Carey は詳しく解説している。敵対行動をとりつつも、神秘学の教師に従って Diponegoro 王子も神秘的な行動を熱心にとり続けた。Carey が書き落した神秘学の教師の一人が 1840 年頃に亡くなって中部ジャワ州の Boyolali にある Gunungan Cepogo に葬られた Kyai Ageng Imam Shaleh であった。敵対行動の期間中 Diponegoro 王子も南海の女王とコンタクトをとろうとし

たことは確実である。〈151〉

第 12 章で Carey は、Remakamal においてオランダの使節 JB Cleerens を後日無理やり言わせた幾つかの戦いの前線において、敗退を喫した Diponegoro 王子の軍に示されるジャワ戦争の竜頭蛇尾さについて詳しく語っている。オランダ軍の the commander-in-chief であった副総督の HM de Kock の奸計により、ついに Diponegoro 王子は 1830 年 3 月 28 日に Magelang で捕らえられた。Diponegoro 王子と主要メンバーの逮捕の過程を復元すると、1830 年 4 月 5 日にスマラン港経由でバタビアに護送されるまでになり(Diponegoro 王子のバタビア着は同月 8 日)、Manado での幽閉場所までの長距離移動と最後には Makasar まで行ったとこの章では述べられている。

まだまだ多数の興味ある記事がこの本には開設されている。例えば、幼少のみぎり Diponegoro 王子はイスラムを学ぶことを影響させた祖母を含めた家族の女性たちに囲まれていた。Carey も、blangkon を被ってジャワの服を着た Diponegoro 王子の若い頃のスケッチを入手することができた。事実、Diponegoro 王子は Melayu 語もオランダ語もよく話せず、Ngoko(目下のものに使うジャワ語)を話す方を好んだ。Diponegoro 王子はオランダ領インドとアラブの地図についていろいろと知りたがった。かれも欧州風の食事マナーをよく理解していた。Diponegoro 王子は Kentang Welanda やパンなどのオランダ料理を好んだ。ワインを飲むことを拒否したとはいえ、バタビアから Manado にやってきた Corvette Pollux の接待の際には薬として無理やり飲まされたのであった。

ジャワ戦争の終結後、マラリアに冒された Diponegoro 王子はジャワ全土の最高宗教指導者(ratu peneteg panatagama wonten ing Tanah Jawa sedaya)と自称したがった。オランダによる幽閉のあと、Kyai Ageng Bandayuda という名の小さなクリスを携帯することを許された Diponegoro 王子はメッカ詣でを強く希望した。オランダが与えたお金の一部を別に蓄えていた。Jendral Van derr Capellen (在任期間 1819-1826)にスマランから拒否されるようになり、Diponegoro 王子は Magelang の haji からもらった zamzam の水を飲んだ。〈152〉人生を閉じるまでメッカ巡礼に行くという Diponegoro 王子の希望をオランダが受諾することはなかった。

Carey によると、ジョグジャカルタの王族であり当初は中立的で何ら政治的野望を抱いておらず、オランダという不信人者に対して「聖戦」を宣言した Diponegoro 王子を後押しした要素が二つあり、それは 1823-1825 年に中部ジャワを襲った土地制度の危機とジョグジャカルタでオランダ高官が指示した実情に合わないいろいろな行動であった。これ以外にも Diponegoro 王子が作り上げた宗教的戦争への意欲が反オランダへの敵対を続けさせることになったこともその理由としてあげられる。Diponegoro 王子をして牙をむくようにさせたのは、当時事実上ジャワの王国は強力な軍隊を保持していたこともその要素に含まれる。ジョグジャカルタ王宮ではそのかわりに、オランダが熟慮した武器を使い馬も使うのが上手な女性の軍隊(Royal Amazon Corp)を保持していた。

Diponegoro 王子は 1875[18]年 11 月 11 日の夜明け前に生まれ、The Versailles of Java の環境下で育った。偶然という要素もあったかもしれないし、生誕の 70 年前にあったのとおなじような最後の奇跡になったゆえに、生涯で七人の妻と名前が分かっていない数人の妻たちを持った Diponegoro 王子は 1855 年 1 月 8 日月曜日の夜明け前に Makassar の Rotterdam 要塞内の一室で息を引き取った。

このようにして、Carey は本のカバーに「謹呈。Diponegoro 王子の家族と子孫へ」と書いており、ジョグジャカルタの貴族によって開かれた独立への道の一つは、このひとと同じ国民の子孫として我々全員がこの努力を称賛するとともに実行するのである。そして、諸祖先の霊に与えられる最重要なものの一つは完全に民族の和解をすることである。

一方、この本の中で南海の女王との関係は、すでに出会ったことが述べられて Diponegoro 王子に少しスピリチュアルな忠告を与えた南海の女王の存在に関して何が提供できるだろうかということとみられ、学界から高い賞賛を受けている。〈153〉上記の宝物に富んだ自国においてさえそれほど賞賛されないのは残念であるということができる。

ここで見つかったいろいろな要素以外に確かに言えるのは、ジャワ戦争以前から Diponegoro 王子は敵対する国民を率いる自信が足りなかったとともに、確かに

[18] 1785 年の誤植

ジョグジャカルタとジャワの王族たちは全般的にその多くがオランダとの和平を好み、少なくとも敵対の意思を表すことを好まなかった。したがって、Diponegoro はアッラーにその指示を仰ぐ必要があった。そしてその一つの方法は先達の墓なに参詣することであった。

Diponegoro 王子の行為の一部は南海の女王の恩恵を願う方法であり、また大サルタン[19]からの恩恵を願うことであった。

およそ、南海の女王の恩恵を願い、ジョグジャカルタの南岸の Parangtritis 付近の Secan 洞窟で南海の女王と会った Diponegoro 王子自身であった。Diponegoro 王子の願いは聞き届けられた、その印として南海の女王は、伝承によると影絵芝居の時代の Drona 僧正の息子である Aswatama が当初は所持していた Sarotaman (Aswatarman とも呼ばれる)小さなクリスを与えたことであった。この武器で Diponegoro はジャワ文化における sipat kandel(遺言)と呼ばれるなにものかを得た。

Sarotaman の獲得とともに南海の女王と Diponegoro 王子の邂逅の神秘的な伝統儀式を説明する Babad Diponegoro の中にあるものがこれ[20]なのである。

15. Sabakdanira Djumungah

sagung ingkang djuru kuntji

apan samja ladjëng kurmat

dadya njare sawëngi

neng masdjid Djimatan iku

endjing anulja pangkat

Seh Ngabdurahkim lumaris

turut Iepen ika ladjëng munggah ngarga. 〈154〉

---

19 マタラム王家のサルタン

20 ジャワ語の文献はこちらからダウンロードしたもの。
http://arikapika.blogspot.com/2014/02/babad-tanah-kelahiranku-pacitan.html

16. Prapta ing Guwa Siluman

ladjëng anjare sawëngi

endjingnja nulja lumampah

nut irah-irah [arah-arah?] ing ardi

samana sampun prapti

Seh Ngabdurahkim puniku

Guwa Sagala-gala

anulja dipunlëbëti

kalih dalu njare neng Sagala-gala.

17. Endjing anulja lumampah

ladjëng andëdër kang wukir

Guwa Langse. kang sinëdja

dirgama wus tan kaesti

samana sampun prapti

Guwa Langse lampahipun

Seh Ngabdurahkim nulja

nengriku amati ragi

awatara neng guwa satëngah tjondra.

18. Ngëningakën ingkang tjipta

wus sirna sagung kaeksi

Seh Ngabdurahkim samana

mung kantun rumëkseng urip

urip rumëkseng diri

diri wangsul urip sampun

kang urip kaja-kaja

sampun tan këna wiharni.

kawarnaha ingkang ngadaton samodra.

19. Djëng Ratu Kidul was prapta

neng ngarsa Seh Ngabdurahkim

mapan padang djro ning guwa

nging Djëng Ratu wus udani

lamun Seh Ngabdurahkim

lagi suwung tjiptanipun

datan kenging ginoda

dadya umatur ubanggi

lamun bendjing tëkeng mongsa

bade prapta.

20. Nanging Seh Ngabdurahkim

mijarsa datan ningali

Ratu Kidul sampun musna <155>

mangkana Seh Ngabdurahkim

wus utjul tingalneki

man tuk bongsarijahipun

endjing nulja tumëdak

dumatëng Parang Taritis

ladjëng siram anjare Parang Kusuma.

21. Pitëkur sesenden sela

lajap-lajap duk mijarsi

suwara mapan mangkana

efh hja ta Seh Ngabdurahkim

ngaliha araneki

Ngabdulkamit ta sireku

lan maneh ingsun warah

kurang tëlung taun iki

ing bubrahe ija nagara Ngajogja.

22. Apan wus karsa ning Suksma

wiwit bubrah Tanah Djawi

ija iku tëlung warsa

lamun sira iku bendjing

apan ija pinasti

dadi lalakon ing besuk

ingsun aweh pratonda

marang sira Ngabdurahkim

panah Sarotama iki siranggowa.

23. Lan maneh wëwëkas ingwang

lawan sira Ngabdulkamit

lah poma sira denjitna

lamun luput iku bendjing

ramanira tan dadi

ananging ta wëkas ingsun

Ngabdulkamit mring sira

jwa gëlëm sira kinardi

ja Pangeran Dipati marang Walonda.

24. Mapan wus pasti duraka

nanging ta ramanireki

Ngabdulkamit djaganana

ënggone djumënëng Adji

tan ana malih-malih

mung sira sarananipun

mapan iku tan dawa

namung kinarja luluri

Ngabdulkamit wus poma sira muliha.

25. Bjar wungu padang tingalnja

tan ana djanma kang angling

ladjëng tumëngeng gagana

wontën tjumlorot lir tatit

tiba ngarsanireki

tumantjëb ing sela iku

nënggih Ki Sarotama

sigra pinundut tumuli

bjar rahina Seh Ngabdulkamit lumampah.

26. Kinandut Ki Sarotama

pan ladjëng urut gigisik

kendël ana ing Sawangan

sakëdap nulja lumaris

prapta Lipura iki

ing Sela Gilang puniku

njare sadulu nulja

endjing pan ladjëng lumaris

prapteng Guwa Sëtjang kendël

Djëng Pangeran.

27. Anjare sadalu ika

endjing pan ladjëng lumaris

kondur marang Tëgalardja

samana pan sampun prapti

ladjëng denbusanani

Ki Sarotama puniku

rineka tjundrik ika.

大サルタンからの Diponegoro への恩恵の依頼は大サルタンの墓へ使者を送ることで実施された。この使者がサルタンの墓廟に入った時、彼は真っ白なベールを見た。その後、墓廟を出ようとした時に彼はそのベールには血痕が付いていたのを見た。〈156〉

この二つの出来事は、Diponegoro が武力闘争を指揮して出血するという必然性を示している。たとえ、Diponegoro が本物の戦争や戦闘に巻き込まれていなくても、である。闘争への自信は単に上記の二つの兆しによるものでないことは確かである。これらの兆しは、闘争の目的に合法性を与えるとともに、すでに亡くなった人たちからの恩恵を得るためであったことも確かである。

第四章 訳出終了 2018 年 8 月 20 日